

# 市民環境大学OB会 ニュースレター



第31号 2020年3月19日 発行

今年の紅梅

## 日野市民環境大学は今年度で12年目！！

日野市民環境大学OB会の母体である市民環境大学講座は我々の顧問でもある小倉先生の長年にわたるご指導で今年12年目を迎えます。環境という非常に難しく高いレベルの内容を素人にもわかりやすく懇切丁寧にご指導頂いており、講座受講修了者は市民レベルでの環境問題へのなすべき行動規範のようなものが理解でき、OB会の活動などにつながっています。また、受講した内容や貴重なデータを小倉先生にまとめて頂けないかというような希望も出ております。今回、顧問の小倉先生にご挨拶と今までの受講者数などをまとめて頂きましたのでご紹介します。

### 「市民環境大学講座11年を終了して」

小倉紀雄

本講座は2009年度に始まり、2019年度で11年を終了しました。修了者は185名に達し、修了者によるOB会の活動も積極的に行われています。講座では身近な環境から地球規模の環境まで広く考える資料を提供し、その後の意見交換も活発に行われました。2017年4月にカワセミハウスの設置に伴い、黒川清流公園の四季を楽しむフィールドワークの機会を増加させました。本講座がこれからの自然環境を考え、保全のために実践するきっかけになることを期待しています。

### 市民環境大学 開催日数と修了者内訳

開催期と年度	開催日数	修了者数(女性数)	延べ出席者数	
第1期 2009年度	24	13(4)	349	
第2期 2010年度	24	14(6)	322	
第3期 2011年度	20	11(3)	227	
第4期 2012年度	20	14(6)	234	
第5期 2013年度	20	15(8)	320	11年間の集計
第6期 2014年度	20	16(9)	353	講座開催日数 228日
第7期 2015年度	20	19(8)	343	修了者数 185名
第8期 2016年度	20	17(6)	326	延べ出席者数 3781名
第9期 2017年度	20	21(9)	327	
第10期 2018年度	20	19(7)	424	
第11期 2019年度	20	26(9)	556	

## OB会初の試み、ビデオ放映会開催

12月の定例OB会では初の試みとしてビデオの放映会を行いました。NHKのBS放送などで放映された番組の中から、今回は“脱プラスチックへの挑戦”～持続可能な地球をめざして～と題する内容の第一部を見ました。オランダの青年がNPO活動を立ち上げ、太平洋ごみベルトと言われる地域に浮遊するプラスチックごみを回収しようという試みを報じるものでした。

最近では珈琲会社がプラスチックストロー廃止を表明するなど徐々にプラスチックごみ削減の動きが出てきています。放映後参加者でこの問題についての話し合いが行われました。最近ではマイクロプラスチックによる海洋汚染もさることながら、大気中に浮遊するプラスチックの問題も出始めているとの意見や海中に出たプラスチックは塩分を含み廃棄処理が非常に難しくかつ高コストという問題もあるなどの意見が出ました。今後の削減に対してはなかなかゼロにはできないもののプラスチックレジ袋を使用しないなど地道な努力が必要であるということを再認識させられました。

【OB会コラム】 今回のOB会コラムはニュースレター常連の田中さんです。昨年秋のラグビーワールドカップ観戦記を寄せて頂きましたので紹介します。試合の結果もさることながら、台風19号で開催の危ぶまれる状況や鶴見川すぐ近くにある会場の横浜・日産スタジアムの構造や鶴見川治水対策が功を奏した状況など生き生きと語られており大変興味深い内容です。

投稿 「ラグビーワールドカップ、日本VSスコットランド戦と台風19号」

OB会 田中 徹

ラグビーファンの私はラグビーワールドカップについてホームページで2回発信しました。

今回は10月13日、横浜国際総合競技場（日産スタジアム）で行われた日本VSスコットランド戦の感想を書いてみます。ベストエイト最後の一枠をめぐりどちらが決勝トーナメントに進むか国際的にも注目された試合でした。スコットランドは4年前のワールドカップで日本のベストエイト進出が阻まれた因縁の相手です。結果は日本が文句なしにスコットランドを破りベストエイトに進んだ歴史的な試合になりました。

10月12日、台風19号で豊田市と横浜市（日産スタジアム）の2試合が中止になり、13日の釜石市の試合も中止になりました。ワールドカップラグビーの試合中止は初めてのことです。

スタジアムの周りは公園そしてすぐ北側を鶴見川が流れています。鶴見川は過去に狩野川台風など何度も洪水の被害を起こしている暴れ川でした。12日、台風接近の日スタジアムは深さ80cmの水に浸っていました。洪水が起こっても不思議ではない水位でした。主催者は13日キックオフ6時間前までに試合を決行か中止か発表することになりました。東北の河川や千曲川などでは堤防決壊などで町や住宅、田畑は破壊され人的被害も多く大災害となっていました。

中止か決行かラグビーファンはドキドキ、ハラハラ発表をまっていました。

13日午前に試合決行が決まりました。鶴見川流域に洪水がおきず、なぜ試合ができたのでしょうか。

鶴見川は長さ42.5kmの1級河川です。町田、川崎、横浜、など東京都、神奈川県に接しています。

国交省は鶴見川を総合治水対策のモデルとして位置づけ流域の自治体と連携した治水対策を実施してきたのです。◎流域と一体となった総合的な治水対策。◎河道整備、調整施設の整備。◎流域の保水、遊水機能の整備。具体的には地下式も含めた大きな遊水地、大小3,300を越える調整池、浸透枡などです。

横浜国際総合競技場（日産スタジアム）は新横浜公園の中に建設されています。スタジアムを含む新横浜公園自体が多目的遊水地として設計されています。つまりスタジアムは遊水地に居候させてもらっている身なのです。

12日、台風接近で鶴見川も増水し公園西側の越流堤を越えて水が公園内に流れ込み、深さ80cm、一面沼のようになりスタジアムも水の中に浸ってしまいます。しかしスタジアムは1,000本以上の柱で支えられた高床式、競技するフィールドは3階に相当し地上面より高い位置にあります。台風のピークが過ぎた後、下流の排水門を開き川に放水しました。水が引いた後、ラグビー関係者や施設関係者の必死の土砂撤去作業で日本VSスコットランド戦を開催することができたのです。

台風19号がもたらした甚大な被害と10月13日のラグビーワールドカップ、日本VSスコットランド戦を可能にさせた鶴見川の総合治水対策から何を教訓にするか、急流の日本の河川の治水は流域自治体が連携する総合的な流域治水が必要です。

地球温暖化が進んでいます。流域治水対策も急がないと人災になるでしょう。



横浜・日産スタジアムにて

## OB会メンバー 活動イベントニュース

- ・多摩平の森マンション建設計画についての嘆願書提出（1月14日）  
「黒川流域の未来を考える市民の会」「浅川流域市民フォーラム」「東豊田緑湧会」「環境大学OB会」の4団体連名で日野市長あてに提出
- ・身近な水環境の全国一斉調査に今年度も参加予定（測定日は2020年6月7日(日)を予定）
- ・カワセミハウス協議会環境分科会に参加登録予定
- ・日野の水と緑の保全に関する調査研究の助成を申請予定

## OB会 話題提供と話し合い 2月定例OB会

- ・生分解性プラスチック、CO2吸収へ森林管理を。（話題提供：原田さん）
- ・黒川水路の起点と水路系統について（話題提供：末包さん）